

## スケジュール



- 14日 オークランドに到着
- 15日 オークランドからネルソンへ移動
- 16～19日 エイベルタスマン国立公園 訪問
- 23日 アーサーズバス国立公園 訪問
- 26日 知床へ到着

## マップ

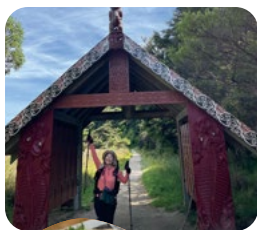


美しい海岸線と豊かな原生林が織りなす全長約54キロメートルのグレートウォーク「Abel Tasman Coast Track」を有するエイベルタスマン国立公園は、ニュージーランドで最も利用者が多い国立公園です。3泊4日のトレッキングでは実際に自身の足でコースを歩き、山小屋や水上タクシーを利用することで、コースの整備状況、案内標識、安全対策などを詳細に視察しました。

トレッキング中の食事は、朝晩はアルファ米、行動食はラップサンドで野菜不足を補いました。

《エイベルタスマン国立公園》  
海岸線と原生林が織りなす絶景

### ▼トレイルゴールの様子



▲トレイルサインの矢印は遠くから見ても目立つデザインに

▲トレイルのお供はサラダラップ!



▲アーサーズバス国立公園ビジターセンター



▲Arthur's Pass Walking Trackのトレイル

### ▼現地職員による山小屋の宿泊予約確認



### ▼Abel Tasman Coast Trackは潮の満ち引きの事前確認が必須!



## 海外の国立公園から知床の未来を考える

日本各地の観光地で問題となっているオーバーツーリズム（観光客が集中することにより、地域の環境や住民の生活に悪影響を与える現象）は、知床においても例外ではありません。特定の時期や場所に観光客が集中する傾向が見られます。自然保護と観光利用のバランス、理想的な形とは何でしょうか？知床国立公園ではその課題に日々向き合っています。

より良い公園管理を目指し、知床財団では職員の自己研鑽のための研修事業を行っています。コロナ禍で中断していた海外研修が2024年に再開されたことを受け、私は研修の舞台としてニュージーランド南島を選びました。ニュージーランドは知床と似た自然環境を抱えながら、自然公園の管理・運営において先進的な取り組みを行っている国で、知床国立公園の将来像を考える上で、多くの学びがあると考えたからです。研修では大きく2つのテーマに焦点を当てました。

1つ目は自然保護と観光利用のバランスをどのように保っているのか、その仕組みを学ぶことです。

2つ目は訪日外国人利用者に対応した情報提供のあり方や、安全対策についてです。事前の情報提供は事故やトラブルを未然に防ぐために非常に重要です。知床特有の天候の変化、地形の特徴、ヒグマの生息、必要な装備などの情報を分かりやすく提供する必要があります。現地ではエイベルタスマン国立公園とアーサーズバス国立公園を訪れ、知床での改善策を探ってきました。

## 研修スケジュールと内容

研修は2024年11月13日から26日までの2週間にわたって実施し、行程中の一部は知床で山岳ガイドを行う伊藤典子さんと一緒に回りました。

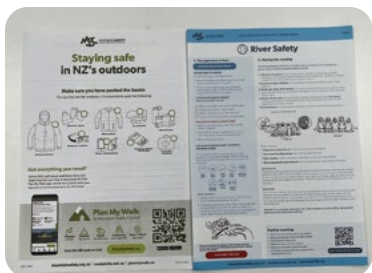


▲研修の心友・伊藤さん

## 《アーサーズバス国立公園》 山岳景観と多様なコース

山岳観光地として名高いアーサーズバス国立公園では、初心者でも気軽に楽しめる「Arthur's Pass Walking Track」や「Devils Punchbowl Track」の2つのシェルトウオークコースを視察しました。整備が行き届いたコースは、多様なトレッキングニーズに応える国立公園の取り組みを示すものでした。

また、トレッキングの情報拠点となるビジターセンターにも訪れ、DOC（自然保護省）職員へのヒアリングを実施しました。国立公園管理の仕組み、安全対策、外国人利用者への対応など、知床国立公園の管理運営にも参考となる情報を得ることができました。



▲適切な情報が載っているアプリをダウンロードするように促すチラシ



知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？  
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。



## 大盛況！イベントが目白押しのカフェ湯ノ沢

2月11日、知床羅臼ビジターセンターにて「カフェ湯ノ沢」を開催しました！

羅臼町内の飲食店によるスイーツやドリンクの販売に加え、「クマ端会議」や「雪の結晶を観察しよう！」などのワークショップも実施し、町内外の多くの方にお楽しみいただき、終日大賑わいとなりました。

地域の皆様とヒグマ対策員がヒグマについてざっくばらんに話す「クマ端会議」には29名、屋外で雪の結晶について学ぶ「雪の結晶を観察しよう！」では14名の方にご参加いただきました。

今後も地域の皆様が楽しんでもらえるようなイベントの企画実施を通して、知床の魅力を発信してまいります。

※「カフェ湯ノ沢」は羅臼町、「雪の結晶を観察しよう！」は環境省からの受託事業で実施しています。



## 森づくりの道「開拓小屋コース」のPR動画が完成しました！

開拓小屋コースの存在をより多くの方々に知ってもらい、実際に歩きたいと思ってもらえるような動画を制作しました。

開拓小屋コースのPR動画は、ダイキン工業支援事業の一環で制作しました。制作協力を依頼したドローンオペレーターの技術により、森や知床連山など自然の壮大さが表現され、森を歩く人々の豊かで繊細な表情も描かれていて、期待を上回るような完成度でした！同行した撮影は天気に恵まれ、様々な野鳥や動物たちが姿を見せてくれました。

動画は知床自然センターでも上映しています。訪れた際はぜひ動画を見て、森づくりの道「開拓小屋コース」に足を運んでみて下さい！

動画は右のQRコードからご覧ください！  
<https://www.youtube.com/watch?v=uDwd730oA-A>



## 研修を通して

今回の研修では、ニユージーランドの国立公園における先進的な取り組みを実際に体験し、主に2つの知見を得ることができました。

### ① オーバーユース対策

自然豊かなニユージーランドでは、トレッキングが盛んです。多くの人が訪れるトレイルは、事前宿泊予約によって利用人数を制限しており、将来的にはガイド付きツアーの駐車場入込数制限なども行う予定だそうです。

知床では、知床五湖の「利用調整地区制度」(2011年導入)が、遊歩道の混雑緩和に確かな成果を上げています。しかし、知床国立



▲事前予約制の山小屋は綺麗で快適



▲トレイル脇には山小屋やキャンプサイトの予約を促すパネルも

公園全体に目を向けると、依然として解決すべき課題があり、特に国立公園内の道路では利用規制がないため、繁忙期には多くの自家用車が集中し、野生動物との事故のリスクや、交通渋滞の発生、駐車場不足など様々な問題が残っています。知床国立公園の持続可能な利用を実現するためには、公園内に入る前のルール周知の徹底や、アクセス手法の検討などニユージーランドのように思い切ったシステム導入も視野に入れるべきかもしれません。

### ② 情報提供と安全対策

今回訪れたトレイルの情報はDOC公式ウェブサイトから、利用の仕組みから最新の現地状況ま

で事前に得ることができ、計画段階で安全対策を考慮した準備に大変役立ちました。現地に到着してからも、ビジターセンターのスタッフから必要な情報を得ることで、不安なくトレッキングを楽しむことが出来ました。

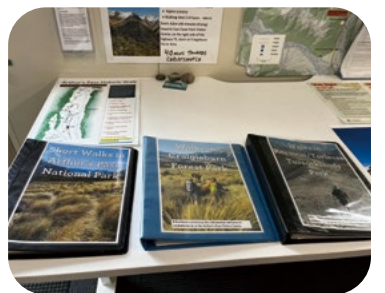
またビジターセンターのパンフレットで、野外活動の安全に関する注意事項やルールがピクトグラムで示されていたおかげで、日本人の私も容易に理解することができ、言語に頼らない情報伝達の有効性と、多様な利用者への情報提供の大きなヒントを得ることができました。

知床における情報提供も利用者が知床を訪れる『前』と『後』の2段階での差別化が必要と感じました。事前にウェブサイト等でルールや注意事項を理解していただき、到着後には現地でしか得られない細やかな情報提供を通じて、安全意識を高めてもらう。この両方が連携することで、初めてその効果が最大限に発揮されるのだと思います。

## まとめ

今回の研修で得た知見を活かし、知床では今後、トレイル等の現地状況の収集に基づき、利用者の安全意識と判断力を高める工夫をした情報提供をさらに進めていきます。

また今後は、知床の散策路に特化したアプリの開発も検討したいと思います。このアプリは散策路のリアルタイム情報の共有や、利用者に適したルートを提案する機能を備え、誰もがいつでも最新の情報にアクセスできる環境を整えたものを目指したいと思っています。今後も引き続き、より良い国立公園の利用のあり方を検討し続け、知床の自然の魅力を多くの方に安全に楽しんでもいただけるよう、スタッフ一丸で取り組んでいきます。



▲トレイル情報は誰でも常に情報が得られるよう、トレイルガイドが設置されている